

リンドウ極早生品種「いわて夢あおい」におけるジベレリン処理による開花前進効果

【1 成果の概要】

- (1) 極早生品種「いわて夢あおい」の全茎収穫後の越冬芽（切株）にジベレリン 100ppm 液を株当たり 5～10mL 散布することにより、翌年の開花日が慣行より 1～2 半月程度前進します（表 1、表 2-②、図）。
- (2) 全茎収穫後のジベレリン処理による開花日前進効果は処理翌年のみとなります（表 2-③）。
- (3) 「いわて夢あおい」への全茎収穫後のジベレリン連年処理による切り花本数の減少は見られません（表 2-①）。

表1 H28開花日と切り花本数(3年生株)

試験区	H28 開花日	切り花 本数(注) (本/株)	うち規格内 本数 (本/株)
7/7処理	6/23 (-10)	7.8	7.2
7/15処理	6/24 (-9)	8.2	7.1
慣行	7/3	5.0	4.7

※ジベレリン処理量:10ml (処理はいずれもH27年)

※開花日:開花盛期(50%開花日)、括弧内は慣行との差

(注)切り花本数:慣行区は養成茎3本を残して収穫した本数

表2 H29開花日と切り花本数(4年生株)

試験区	ジベレリン処理		H29 開花日	切り花 本数(注) (本/株)	うち規格内 本数 (本/株)
	H27	H28			
① 連年処理	有	有	7/3 (-4)	5.7	5.6
② 前年処理	無	有	6/28 (-9)	6.6	5.2
③ 前々年処理	有	無	7/7 (0)	4.1	4.0
④ 慣行	慣行	慣行	7/7	3.0	2.8

※ジベレリン処理量 H27:10mL H28:5mL 括弧内は処理日

※開花日:開花盛期(50%開花日)、括弧内は慣行との差

(注)切り花本数:慣行区は養成茎3本を残して収穫した本数



図 試験区の開花状況 (H29.6.28)

【2 留意事項】

- (1) 本試験は県南部における「いわて夢あおい」のみの結果です。他の地域及び品種については、事前に効果を確認の上で導入してください。
- (2) 全茎収穫は2年生株から可能ですが、生育不良株や副塊茎のない株では、欠株が助長されることがあります。本技術は副塊茎も充実した生育良好な株が大部分を占める圃場で使用してください。
- (3) 処理後に伸長した茎は葉枯病等の病害が発生しやすい傾向があるので防除を徹底してください。

担当研究室 技術部 野菜花き研究室

〒024-0003 北上市成田20-1 TEL. 0197-68-4420 FAX. 0197-71-1083